

2 指導の重点

(1) 各教科、「特別の教科 道徳」、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ① 授業のねらいを明確にして、分かる授業を展開するとともに、メタ認知向上の一途としての振り返りの時間を確保する。
- ② 学び合う姿勢を大切に、問題解決的な学習や言語活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫・改善を図った授業を推進する。
- ③ 生徒による協働の時間を單元ごとに確保し、ファシリテーションの手法を用いて、対話活動の活性化や促進化を試みる。
- ④ 数学・英語では指導方法工夫改善加配教員を活用した習熟度別・少人数授業を行い、さらに英語では英語指導助手の活用を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るとともに、コミュニケーション能力の向上及び生徒の実態に応じた指導の充実を目指す。
- ⑤ 保健体育では、救命救急講習会やダンスの授業を関係機関や大学の協力を得ながら実施する。
- ⑥ 家庭科では栄養士とのチームティーチングや講師による食育の授業を展開していく。
- ⑦ 学習習慣を身に付けさせるために、国語科では授業ごとに漢字テストや視写を行い、数学科では計算コンクールを実施し、英語科では授業ごとに定型文の音読を行う。
- ⑧ 運動会や合唱コンクール、作品展などの学校行事との関連を図った指導計画を作成し、生徒の関心・意欲の向上を図りながら、自己表現の力を深化・発展させる。

イ 「特別の教科 道徳」

- ① 「考え、議論する」道徳の授業を通して、多面的・多角的に考える力を身に付け、人間としての生き方についての考えを深めさせる。
- ② 道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体と道徳の時間との関連付けを図りながら、「命の教育」を推進し、自他の生命を大切に、他を思いやる心を育てる。
- ③ 赤ちゃんのチカラプロジェクトや職場訪問などの体験的な活動の機会を増やし、道徳の実践力を高めるとともに、道徳授業地区公開講座や国立ハンセン病資料館の方の講演会を実施するなど、保護者や地域社会と連携した活動を推進する。
- ④ 道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の積極的な参加や協力を得て、共通理解を深め、相互の連携を図る。
- ⑤ 特別支援学校等の訪問、外部のボランティア活動等の体験を通して、自他ともに尊重できる豊かな心の醸成に努める。

ウ 総合的な学習の時間

生徒に身近で興味あるテーマを設定することにより、学習や課題に対して自ら進んで探求したり協議することを通して、課題を解決していく能力を育てる。また、レポート等の紙面発表、口頭発表、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、発達段階に応じた指導計画を作成することにより、表現力、発表力を育成する。さらに、インターネットや学校図書館を活用することにより、情報収集・活用能力の伸長を図る。

エ 特別活動

- ① 運動会や合唱コンクール等の学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の活躍する場を大切に、成就感や充実感を味あわせ、集団への所属感を深めさせる。
- ② 生徒会主催のアースデーや募金活動、落ち葉清掃などの奉仕活動やボランティア活動の充実を目指す。

(2) 特色ある教育活動

- ① 委員会活動が生徒の自主的・自立的な活動となるように支援する。
- ② 調べ学習の成果としての個人新聞や班新聞、プレゼンテーションソフト、また、挨拶状やお礼状の作成など、多様な方法で発表・表現できるように指導する。
- ③ 朝読書や読書推進月間を実施する。また、図書委員会の活動に図書館運営支援員を活用する。